寂光院のご詠歌

なるみがた　鹿の継鹿尾に　へだておき
いざやなびかん　くさなぎのみや

継鹿尾寂光院は、白雉五年、孝徳天皇の勅願を以て、南都（奈良）元興寺道昭和尚が開山されたと伝えられる尾張最古刹・千手観音霊場であります。

さて、当山では毎月五日十八日の七七月参りご縁日には、山上のご本堂におきまして、月例大護摩祈祷が厳修されますが、その折に読まれる祈願文には「ご本尊千手観世音菩薩は日本武尊のご神魂の御作」とあります。

実は寂光院は冒頭のご詠歌にも詠まれておりますように、「鹿の継鹿尾」伝説と「草薙の宮（熱田神宮）」は、深く関わりを持ち、当然その仲立ちをするキーパースンが「日本武尊」でございます。その全容は表紙写真の「継鹿尾山縁起」に解かれています。つまり、この継鹿尾山縁起のテーマは「ご本尊千手観音様が、いかにして日本武尊のご神魂がこめられて、あらたかな観音さまか」をビジュアルに絵解きするものであります。

実はこの「継鹿尾山縁起」の存在が長らく確認できませんでしたが、平成十九年から二十二年にかけて進められた国登録文化財・本堂随求堂「平成の大修理」の折り、その所在が絵解き原稿とともに確認されました。

この継鹿尾山縁起は本体が、縦二二七センチ、横一八二センチの大きなもので、所在確認の時点で相当の破損、汚れが進んでおりまして、早い修復が待たれておりました。当山恒例の九万九千日「記念慈悲行」で去年（平成二四年度）この修復を発願、本誌七頁のご協賛各社のお力添えを持ちまして、昨年暮れに修復は見事に完成し、当山に納められました。これでまた今後五十年一〇〇年と伝承したいと思っております。

奇しくも本年平成二十五年は「熱田神宮・日本武尊壹千九百年祭」の佳年に当たります。これはきわめて不思議なご縁と、感じ入っております。



ご本尊千手観音様は日本武尊のご神魂の御作

犬山・寂光院山主
松平實胤

す。日本武尊のご神魂が修復を促したとしか言いようがありません。

私も寂光院の住職として、祈願文に出てまいります「ご本尊千手観世音菩薩は日本武尊のご神魂の御作」との確信を盤石のものにした次第でございます。

合掌

是非、山上本堂で厳修されます月例大護摩祈祷（五日・十八日十時半）にお参りされ、祈願文に耳を傾けていただければ幸いです。

（詳しくは三頁下段をご覧下さい）

必見！！　寂光院ホームページ　www.jakkoin.com
QRコード